

## 『「うつ病」と「仕事」の狭間の思いとは何か？』

2008年8月18日  
子ども家庭教育フォーラム  
湯浅 和彦

### 【目的】

会社の同僚（A氏）が「うつ病」と診断された。その時、同僚は「仕事を続けながら治したい。」と言った。同僚が仕事に復帰するまでの経過と対応を検討し、私の「気づき」と「思い」を示したい

### 【方法】

A氏、男性、42歳、妻子あり、営業職、体調不良と不安感、焦燥感が強く、心療内科へ受診し、結果として「うつ病」と診断された。A氏と話し合いをしたところ、「仕事を続けながら治したい。」と言っていた。

A氏は通院と薬事療法を続け、会社も仕事の軽減と遅刻、早退、体調が悪いときには欠勤も認めた。しかし、2ヶ月経過しても、病状は改善されず、病院の診断も一進一退ということだった。A氏自身も良くならないことに不安感を感じていた。結局、A氏は治療に専念するため、2ヶ月の休職をすることになった。現在は営業職から営業支援に変わり、通院しながら職場へ復帰している。

### 【結果】

結果としては休職することで職場復帰をすることができた。

A氏が「仕事を続けながら治したい。」という言葉を見たとき、私は「なぜ仕事を続けたいのか？」と質問をした。A氏の答えは「生活面の不安」、「自分が病気になったことを認めたくない」ということだった。

休職すれば、「会社へ復帰したときに、自分の居場所がなくなってしまう。」、「休職しても治らなかったら・・・。」など、新たな不安や焦りが起きてくることにも気付いた。

### 【結論】

確かに「うつ病」と診断された場合、休職をし、治療に専念することが有効であるが、休職をすることで新たな不安が出てくることも事実である。「傷病手当」や「休業手当」など会社の制度や社会制度を使うことで「生活に対しての不安」を軽減することは出来ても「心の不安」を軽減するのは、家族、友人、知人、職場の人間が病気に対して理解し、向き合い、関わり合うこと考え、人間関係を深めることと強く感じた。

A氏が言った「仕事をしながら治したい」ということは、本当に無理なことなのだろうか。今後の課題として、研究を深めたいと考える。